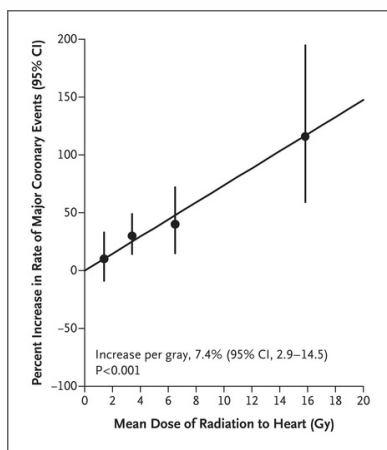


息止め照射で 心血管障害のリスク低減へ

心臓への放射線量が増えると 心血管障害が起こるリスクが増加

- ひだり乳房術後に放射線治療を行う場合、心臓の一部に放射線が照射されることがあります。
- 平均心臓線量が1Gy増加すると、狭心症や心筋梗塞などの心血管障害の発生リスクが7.4%増加するという報告があります。



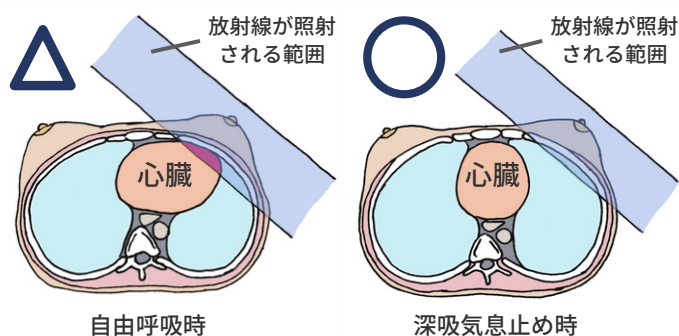
*Darby SC ET AL.N ENGL J MED 2013;368:987-998

当院ではひだり乳房深吸気息止め 照射に対応しています

- 仰臥位で20秒程度の深吸気息止めが可能であれば、年齢問わず照射できます。
- 鎖骨上リンパ節領域を含めた照射も深吸気息止め照射が可能です。
- 自由呼吸時と比較して、心臓線量の低減効果が得られない場合や呼吸停止が難しい等の理由から、通常 of 自由呼吸下での照射になる場合があります。

ひだり乳房照射で深吸気息止めを 行うメリット

- ひだり乳房深吸気息止め照射は、ひだり乳癌術後の方を対象に、仰臥位で深呼吸をして最大20秒ほど息を止めた状態で照射を行う放射線治療です。
- 深く息を吸って肺が膨らむことで、乳房と心臓との距離が離れ、心臓を照射野から外すことができます。これにより、心血管障害の発生リスクを低減することができます。



自由呼吸時と比較して、深吸気息止め時では放射線が照射される心臓の体積が低減されます。



お問い合わせ

JA愛知厚生連 江南厚生病院 放射線治療科
0587-51-3333 (代表)

